

我が国を代表する映画監督・黒澤明。黒澤映画を1本も見ることがないという方は、まずいないでしょう。映画館ではないですが、私は主な作品は全部観たと思います。三傑を挙げるのは難しいですが、私は「羅生門」「生きる」そして「デルス・ウザーラ」が好きです。

黒澤は日本の原風景を愛しましたが、氏に近かった人物のは「黒澤の思い描いたような日本の原風景は、実際には存在しなかったのである」と述べています。本当に日本には「原風景」と呼ぶに相応しい景観は、もう残っていないのでしょうか？私はそうは思いません。高崎市の郊外、かつて倉渕村と呼ばれた地域があります。現在は高崎市倉渕町となっていますが、その一地区の権田（ごんだ）という場所に、気に入っている風景があります。収穫の始まった水田、あぜ道の彼岸花、幾筋ものはさかけ、小さな社と杜の巨木。もし黒澤がこの風景を発見していたら、きっとロケ地の候補にしていたと思います。 (2023年9月下旬／群馬県高崎市倉渕町権田)

